

## 研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB	アジアにおける自動車静脈産業の実態分析と国際環境協力ネットワーク構築に関する研究				
研究テーマ (欧文) AZ	Actual Condition Survey of Asian Automobile Recycling Industry and the Establishment of Environmental Cooperative Network				
研究氏 代表名 者	カタカナ CC	姓) ユ	名) ジョンス	研究期間 B	2009～2011年
	漢字 CB	劉	庭秀	報告年度 YR	2012年3月
	ローマ字 CZ	YU	JEONGSOO	研究機関名	東北大学
研究代表者 CD 所属機関・職名	東北大学大学院 国際文化研究科・准教授				
概要 EA (600字～800字程度にまとめてください。)	<p>本研究は国際的な連携と協力が求められているアジアにおける自動車静脈産業の実態分析を行い、リサイクルシステム（法制度・技術）の特徴と課題を分析しつつ、有効な資源循環システムの構築のための国際環境協力ネットワークの連携可能性について政策提言を行った。自動車リサイクル制度を整備している日本、韓国、そして、急激なモータリゼーションが進められている中国、また、主に日韓の中古車が使われているモンゴル、フィリピンなどの低所得国を事例に、中古車の使用状況、中古部品と再生資源の国際資源循環、リサイクル政策の整備状況、リサイクルマーケットの特徴、静脈産業の成熟度（技術レベル、インフラ整備）などについて比較分析を試みた。</p> <p>特に日本の解体工場において使用済み自動車の解体実験を行い、そこから得られたデータと各国の統計資料に基づいて、経済性（資源相場変動、人件費の違い）、環境影響（資源回収率、廃棄物の有効利用可能性など）に関するシナリオ分析を行った。その結果、人件費の安い中国では、日本や韓国で廃棄されている廃プラスチック類、低品位の再生資源（主にベースメタル）の精緻な解体と中間処理が可能となり、資源化効率の向上が期待できると推察された。しかし、低品位の貴金属類や希少金属類は技術レベルの高い日本や韓国における再資源化が望まれる。</p> <p>次に日韓の自動車リサイクル制度や技術が東アジア諸国に与える影響、中国をはじめとする開発途上国への技術協力ネットワークの構築について考察を行った。既存の制度を維持し、市場原理を重視している日本に比べて、中国、韓国は静脈産業のモニタリングと取り締まりを強化し、新しい政策と技術を積極的に導入した上、資源を確保していこうとする姿勢を示している。</p> <p>最後に本研究の分析結果、アジアにおける国際環境協力ネットワークを構築するためには、モノの循環だけではなく、情報や人の交流と循環が必要不可欠であると考えます。</p>				
キーワード FA	アジア	自動車リサイクル	国際協力	資源循環	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌 1	論文標題 <sup>GB</sup>	環境政策の高度化に関する技術開発と国際比較研究-ELV 関連法制度を事例に-							
	著者名 <sup>GA</sup>	車佳・劉庭秀・戸敷浩介	雑誌名 <sup>GC</sup>	日本地域政策学会全国大会発表論文集					
	ページ <sup>GF</sup>	13~14	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	1	0	巻号 <sup>GD</sup>	第9号
雑誌 2	論文標題 <sup>GB</sup>	アジア自動車静脈産業の実態分析							
	著者名 <sup>GA</sup>	劉庭秀・車佳・林志浩	雑誌名 <sup>GC</sup>	日本地域政策学会全国大会発表論文集					
	ページ <sup>GF</sup>	15~16	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	1	0	巻号 <sup>GD</sup>	第9号
雑誌 3	論文標題 <sup>GB</sup>	End-of-life vehicle recycling and international cooperation between Japan, China and Korea :Present and future scenario analysis							
	著者名 <sup>GA</sup>	<u>Che Jia, Yu Jeongsoo and Kevin Roy. B. Serrona</u>	雑誌名 <sup>GC</sup>	Journal of Environmental Sciences					
	ページ <sup>GF</sup>	S162~S166	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	1	1	巻号 <sup>GD</sup>	Vol.23(Supplement)
雑誌 4	論文標題 <sup>GB</sup>	アジアにおける自動車リサイクル制度の現状と課題 -韓国 <sup>ノ</sup> の運用状況と中国の動向を中心に-							
	著者名 <sup>GA</sup>	劉庭秀	雑誌名 <sup>GC</sup>	廃棄物資源循環学会誌					
	ページ <sup>GF</sup>	87~95	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	1	1	巻号 <sup>GD</sup>	Vol.21, No.2
図書 1	著者名 <sup>HA</sup>	<u>Kevin Roy. B. Serrona, Che Jia and Yu Jeongsoo</u>							
	書名 <sup>HC</sup>	Waste Management (Chapter 9; Managing Wastes in Asia: Looking at the Perspectives of Mongolia, China and the Philippines)							
	出版者 <sup>HB</sup>	In-Tech	発行年 <sup>HD</sup>	2	0	1	0	総ページ <sup>HE</sup>	18 (155-172)
図書 2	著者名 <sup>HA</sup>	<u>Yu Jeongsoo, Che Jia and Kevin Roy B. Serrona</u>							
	書名 <sup>HC</sup>	Integrated Waste Management II (Chapter 10; Emerging Issues on Urban Mining in Automobile Recycling: Outlook on Resource Recycling in East Asia-)							
	出版者 <sup>HB</sup>	INTECH	発行年 <sup>HD</sup>	2	0	1	1	総ページ <sup>HE</sup>	16 (165-180)

欧文概要<sup>EZ</sup>

Recovery and recycling per se are good but accompanying issues need to be addressed in developing countries so that societal benefits are achieved. It is necessary that countries like Japan, Korea and China identify emerging lessons from the implementation of their respective ELV recycling laws so that developing countries can learn from them and craft laws, which are appropriate and tailored to local needs and available resources. This study discussed the experiences of Japan and China in the field of effective use of resources and concomitant issues and challenges and how they will shape the environmental network in East Asia. As a result, in order to establish of environmental cooperative network in Asia, we should exchange the information, materials and human resources in a positive way.